



第19回 スマイル インタビュー



ミニFMラジオ局を立ち上げたきっかけは？

阪神淡路大地震の時に、大きな放送局では扱わない細やかな情報の発信源として、また外国人のための情報提供手段として、大変有効であったという話を耳にしたからです。また、大竹で聴けるFM局が欲しいとも思っていました。

メンバーは？

初期メンバーは4〜5人でしたが、出演者などがそのまま協力を続けてくださったりして、今は10名程度にまでなっています。

どうすれば聴けますか？

駅前ロータリーならカーラジオで聴けます。チューチュープライブで「FMおおたけ」を検索すればヒットしますし、フェイスブックでも案内しています。



スタジオ前にて



番組の内容は？

市内のお店の紹介やおたけ和紙のコーナー、市広報の記事を取り上げるなどしています。また、出演者がそれぞれの判断で放送内容を決めています。

これまで放送を続けた反応はどうですか？

県外の大竹出身者の方から、「聴いてるよ」との反応があり、励みになります。

読者に一言

「地元ラジオ局があったらいいな」と思っているんです。まずは一度聴いてみてください。



「大竹みんながパーソナリティ」
いろんな人が集まって番組を作っています。

あとがき

新たな議員構成で始まった大竹市議会も既に2年を経過しました。地方議会の変質を目的とした議会改革の全国的なうねりを受け活動してきた議会改革調査会において、具体的な姿が現れています。

以前から取り組まれていた議会基本条例もひとまず完成し、あとは詳細の説明である逐条解説を残すのみとなっています。

もう一つの取り組みテーマ、「議会のICT化」の手法として、この度広島県議会にも採用がすすむタブレットの活用にも、具体的な内容が決まりつつあります。

ひとまず委員会だけの導入ですが、機種や会議システムソフトの詳細な機能解析に始まり、情報通信機器使用要領の制定、個人所有機器の使用許可ルール、導入経費の議会費予算内での費用捻出など真剣な議論を継続しています。

前提条件であるセキュリティへの基礎的な知識・情報の共有も挑戦的な学

びとして議員間で浸透し始めました。地方自治はあらたな時代を迎えつつあります。議会としても変革の努力を怠るわけにはいきません。変わりつつある大竹市議会を、本年も厳しい目で見守りいただきますよう、よろしくお願いいたします。

広報広聴特別委員

委員長
副委員長

- 寺岡 章
- 末広 和基
- 西北 一久
- 和田 芳弘
- 和谷 孝
- 網谷 芳
- 日域 究

市議会だよりは市ホームページにも掲載しています。

発行・平成30年2月1日 大竹市議会

広島県大竹市小方一丁目11-1

TEL

0827-15912183